

学校関係者評価まとめ

1 学校運営について

- ・不審者対応の訓練、コロナ感染症対策はよくできていたと思います。
- ・毎月の学校通信や HP の更新等の情報発信、保護者アンケートの実施を通して連携協力を努めるなど、開かれた学校づくりの推進がよくできている。
- ・感染症対策を第一に優先しての危機管理体制の整備は適切であり、安心できる。
- ・コロナ禍のなか、教職員の業務量が増大しているが、それらの課題を明確に把握して改善に努めようとする前向きな姿勢が良い。
- ・喫緊の課題である ICT 活用を教職員同士が積極的に情報交換をし、技能・資質向上に努めている教職員の意欲的な姿勢が素晴らしい。
- ・コロナ禍、新たな学びの方策が進められる中で、ICT に関し OJT がなされているとのこと。職員室によい空気が流れているのだと思います。他の分野にも今以上に OJT が推進されることを期待します。また、学校だより、通信等を通して、先生方が生徒にどのような思いでどう対応されているのかがよく分かります。
- ・コロナ禍になってから以前より学校の様子が分からなくなったと感じるのが事実です。世の中が今までの当たり前が当たり前でなくなり、学校生活も例外

ではなくなりました。先生方は本当に試行錯誤しながら今の状況に合ったベストの形を作って下さっていると感じます。大変とは思いますが、来年度も引き続きよろしく申し上げます。

2 生徒指導について

- ・スマホ依存の子どもが増加しているのが気になる。
- ・不登校の中には朝起きられなくて学校に行きづらい子どももいるみたいです。
- ・生徒の大半が安心した学校生活を送れているのは、生徒の実態把握と予防的対応について教職員の共通理解を通して組織的に取り組みを進めている成果である。
- ・増加傾向にある不登校生徒に対して、各々の居場所や環境づくりに尽力し、個別のケース会議を開催するなど支援体制の取り組みがよくできている。
- ・美化コンクールやトイレぴかぴかコンクールへの生徒の意識の高まりが良い。生徒の主体的な官許言う美化の推進は社中学校の伝統文化の1つであると言える。
- ・下校途中の生徒たちに出会うと気持ちよく挨拶をしてくれます。こちらも元気をもらいます。一方、課題をもった生徒たちに適切な対応ができるよう外部との連携等さまざまな取り組みを推進されている。今後、その成果が期待できますね。

- ・小学校のときに不登校だった子が4月から社中学生になるのですが適応教室や別室登校また放課後登校など色々学校では実践して下さっているのが分かりました。いずれ登校ができるといいなと願っています。
- ・生徒が色々な問題解決、課題に対しては学校（学校内でも先生方の連携・情報共有）、保護者、関係機関との協力がなくてはならないものです。これからも周りの大人たちで子供たちを支えていけるようよろしくお願いします。

3 学習活動について

- ・授業のねらいと振り返りの場の設定が授業者に意識され定着してきたことは良い成果である。主体的に課題解決に取り組む授業づくりにつながる。
- ・ペア研修の実践、事後研シートの記入・提出・活用を課題として協働を楽しめる教師集団を目標に取り組みを進める研究推進に期待できる。
- ・基礎基本の定着と個に応じた学習指導では、アンケート等を実施して生徒の要望、実態把握に努め、一人ひとりの学習状況に応じた指導の工夫によく取り組んでいる。
- ・少人数授業の取り組みで、その成果を実感している生徒が多いことは、基礎学力の定着が果たされていることだと思います。今後、より一層の学力伸長を図る取り組みを期待します。
- ・基礎・標準クラスの分け方は難しいと思います。生徒のいろいろな思いもある

と思います。でも、その子の学力にあったクラスで学べなければ理解できずに伸びないケースの子もいるように思います。(すみませんが我が子を見てそう思いました) 大変だとは思いますが、検討をお願いします。

- ・コロナ禍のなかで、工夫を重ねできる範囲でさまざまな取り組みを行い、課題教育が推進されている。特にローテーション授業を行い、指導力の向上を図り、成果をあげているなど、先生方の意欲的な取り組みが生徒の成長を支えていると思います。
- ・総合的な学習の時間では、コロナ禍の中、代替行事等、工夫をこらして各学年に応じた取り組みを進め、きちんと成果が出せている。
- ・コロナ禍になってからの総合的な学習について特に修学旅行では本当に生徒たちのため一生懸命に取り組んでいただき皆様のご尽力に心から感謝申し上げます(保護者としての意見で申し訳ありません)

4 課題教育について

- ・特別支援教育ではサポートファイル作成や不登校生徒への家庭訪問の実施等、校内の支援体制の整備がなされて推進できている。
- ・人権意識の高揚を図るため、人権作文や人権標語に取り組ませる活動を継続実施するなど人権教育推進体制の充実によく努めている。
- ・道徳教育では学年毎にローテーション授業を実施し、道徳参観日での公開など

道徳の時間を大切にしたい取り組みが推進できている。

- ・新型コロナウイルスの影響を大いに受けた案件だったと思います。たくさんの制限をされた中、工夫され実施されたと感じました。この状況だからこそ子供たちが他人に対して真剣に考えられたのではないのでしょうか。学校外とのかかわり合いが難しい中、大変だったと思います。

5 望ましい集団づくりについて

- ・ノ一活デーの確実な実施や感染症対策をきちんと講じて活発な活動が実施出来ているのは部活動の充実につながる。
- ・生徒会活動ではあいさつ運動や体育大会、専門部会など生徒の主体的活動を重視した取り組みが良い。次年度の課題も明確に把握できている。
- ・様々な行動制限のある中でも生徒の主体性を生かして集団づくりのための改善に励んでおられる先生方のご尽力に感謝です。
- ・保護者アンケート 8 番「子どもは学級での生活が楽しいと言っていた」の項目が高評価を得ている。これは、各学年集団による組織的な学級指導の取り組みが充実している成果である。
- ・校内は清掃が行き届き、通路の壁面の装飾、掲示物等、環境整備によく配慮がなされている。
- ・新型コロナウイルス感染予防対策を取り、最大限に活動されたと思います。難

しかったところは引き続き取り組みをお願いします。

6 地域との関わりについて

- ・三世代交流を年2～3回やっていますが、中学生の参加はありません。(今年もコロナのために中止になりました)
- ・自転車通学に対して学校側の安全面での指導がよくなされている。
- ・地域で出会う中学生の積極的な挨拶には、いつも元気をもらっています。
- ・コロナ禍の中、夏休み中に地域の民生委員代表者との懇談会が開催され、意見交換の場をもてたのは、生徒について共通理解するよい機会になったと思われれます。
- ・コロナで地域の行事もなくなり、中学生とのかかわりも本当になくなってしまいました。それでも1月15日のとんどに参加している中学生を見かけたのはうれしかったです。
- ・新型コロナウイルスが落ち着いた際には、地域の方々と接する機会を作ってくださいれば幸いです。